

“KANAGAWA”

福祉タイムズ

2004 1 No.626

発行日 2004年（平成16年）1月15日
 毎月1回15日発行
 発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
 TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
 編集発行人 清水勝夫
 定 価 100円（郵送料込）
 印刷所 神奈川新聞社
 昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「心をつなごう」ともしびポスター・絵本コンテストのポスター部門で「ともしび大賞」を受賞した小田原市立三の丸小学校6年の鈴木亜里沙さん(中央)は、社会の勉強で肌の色が違うだけで差別された人たちがいたということ、そして今でも差別は消えていないことを感じたという。「色々な人種の人たちが仲良くなって欲しいと思い描きました。表面的なつながりではなく、一人ひとりの心をつながないと差別は消えないと思う」と話す亜里沙さんの周りにクラスメイトが集まってきてくれた。(写真・文 菊地信夫)

あんぐる

千支にちなんで、日本自然保護協会理事の柴田敏隆さんがある会合で「サルに学ぶ」と題して講演しました。共通の祖先を持つだけにサルと人間はどこか似ている。だが、似すぎて困ることが二つあるというのです。

①ゴミをためらもなく捨てる。樹上生活のサルは何でもポイポイ、たれ流し。人間も公害を経ながら未だにゴミ処理ができず、平気で物を捨てる習慣が改まりません。

②プライドはあっても羞恥心がない。ことに若者風俗。電車内での化粧やベタ座りを柴田さんは「あんな恥ずかしい姿はない」と嘆きます。ところ構わずケータイに興ずるのも同様。人間のサル化かもしれません。

ただ一つ、双方似ず、学ぶべきサルの良いところは「互いに殺し合わない」ことだそうです。犯罪の低年齢化、肉親にも及ぶ凶行の数々。そしてイラクなどの戦禍、テロ。サルは反省しても人間はどうなのでしょう。

さらに言えば、サルの社会(集団)は健全ですが、人間の地域社会、企業社会は崩れかかり、一人ひとりが孤立しつつあります。それらをどう支え、どうまとめ立てて直すのか。新たな社会づくりにかかわる福祉の世界もいや応なく広がっていきそうです。

神奈川新聞文化部長 福江裕幸

目次

15年社会福祉関係者叙勲・褒章等受賞者	2・3
ともしびポスター! 絵本コンテスト入賞作品決定	3
2003年福祉の動き	4・5
生きる力をはぐむ市民活動	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ	7
連載・心のゆたかさをはぐむ(10)	10・11